

第 140 回 技術懇談会の講演記録

[1] 日時・場所 2023 年 11 月 4 日 (土) 13:30~16:00 オンライン (Zoom) により実施

参加人数 46 名
見逃し配信参加人数 20 名

[2] 講演テーマおよび講演の記録

13:30-14:10

演題 「アミン吸収法による CO₂回収装置の現況」 13:30~14:10 (質疑応答を含む)

講師 田浦昌純 氏 元三菱重工業 (株) 技術本部、元熊本高専 教授

概要

脱炭素に関する世界的な関心や社会的ニーズは高く、技術開発の流れは非常に速い。その中で、火力発電所からの CO₂ 排出削減技術として、CO₂ 回収・貯留 (CC) が期待されている。講演者は、三菱重工業株式会社技術本部において、燃焼排ガスの浄化技術の開発に携わり、CO₂ 回収のためのアミン系吸収液の開発にも携わった経験がある。三菱重工が行っている、石炭火力発電所排ガスの CO₂ 回収・輸送・貯留一貫実証試験や、新型アミン吸収液の実用化、中小型 CO₂ 回収装置の商用化などの現況をまとめた。

14:10~15:30

演題 「化学工学におけるプログラムマネジメント工学の必要性」 (質疑応答を含む)

講師 〇亀山 秀雄 氏 東京農工大学名誉教授、国際 P2M 学会 (現会長)、吉田 邦夫 氏 (初代会長)

概要

歴史は、個人から大規模な産業に至るまで、あらゆるものに影響を与える社会における多くのパラダイムシフトによって定義されている。かつて石油化学の全盛期に高い地位を享受していた化学工学は、徐々に情報通信技術 (ICT) とバイオテクノロジーにその存在感を譲りつつある。化学工学がプログラムマネジメント工学を活用して社会が求める喫緊の課題に取り組むことで、再度、主導的役割を果たす可能性を秘めている。このアプローチは、近未来における化学工学分野の前進の道である。

(記 山本一己)